

# 鞠智城跡

国営鞠智城歴史公園設置に向けて



温故創生之碑

熊 本 県  
山 鹿 市

国営鞠智城歴史公園設置促進期成会



## 国指定史跡・鞠智城跡を国営公園に

熊本県知事

国営鞠智城歴史公園設置促進期成会会長 潮谷 義子



熊本県では『続日本紀』などの「六国史」に記載された古代山城の鞠智城について、『熊本県総合計画』の中で、「鞠智城の調査と整備を行う」との一項目を盛り込み、国営公園化を前提としながら、長年にわたり調査と整備に取り組んできました。

発掘調査は、昭和42年から開始し、今年度で28回を数えませんが、この間、八角形鼓楼跡を皮切りに、我が国の古代山城としての初の発見が相次ぎました。米倉や兵舎、板倉などの建物跡も、72棟分が検出されています。

整備事業についても、平成6年度から4ヶ年で用地の公有化を図り、総面積55haの内、米原集落と営農地区を除く43.6haを購入しました。この間、県農政部では、城内の上原地区で政策開田を実施して、地権者に水田の代替地を提供しました。次いで、平成7年度に（財）日本宝くじ協会の普及宣伝事業によりモニュメントを制作・設置したのを皮切りに、検出遺構を埋め戻し、八角形鼓楼をはじめとする4棟の復元建物を建設しました。さらにガイダンス施設の温故創生館や研修棟も付設しました。現在は、園路整備に力を注ぎ、継続して歴史公園造りを行っています。

こうして、鞠智城跡は平成16年2月27日に国指定史跡となりました。平成14年度には、鞠智城歴史公園が本格的にオープンし、今日では、年間の入館者が10万人を超えるまでになりました。

しかしながら、この鞠智城跡を今以上により多くの人々に知ってもらい、利活用していただくためには、今後、様々な方策を図る必要があります。その最も有効な手段として、鞠智城の国営公園化があります。閣議決定を経て国営公園が設置されますと、しっかりとした管理業務の元で、復元建物の新設や利便施設等のさらなる充実が望めます。それは、今まで熊本県が長年にわたり取り組んできました整備事業が、大きく実を結ぶことを意味します。菊池川流域の市町の活性化は、鞠智城の国営公園化にかかっているのです。その実現のためには、県民一丸となって取り組み、頑張っていかなければなりません。この運動を今後大いに盛り上げていきましょう。

## 鞠智城跡を国営公園として、菊池川流域・市町の 活性化のために

熊本県文化財保護審議会委員

国営鞠智城歴史公園設置促進期成会常任理事 古閑三博

《はじめに》 鞠智城跡は、千三百年前の国書に記載された由緒正しい遺跡の古代山城です。思い返しますと、平成3年度の発掘調査で、古代山城として国内初の八角形鼓楼跡が見つかり、その後も大きな発見が相次ぎました。これらのことで、鞠智城の知名度は、全国に広がりました。

《整備事業》 『熊本県総合計画』に位置付けられ、平成6年度の用地購入から始まりましたが、県農政部の理解のもと、政策開田を実施出来ましたが、地権者からの承諾を得る鍵となりました。鞠智城跡整備事業の全ては、ここから始まったのです。

平成7年度に、(財)日本宝くじ協会の普及宣伝事業で、防人群像が建立され、続いて県の単独予算により、平成11年度の「くまもと未来国体」に向けて、八角形鼓楼など3棟の復元建物が建設されました。平成12年度から14年度にかけては、林野庁補助事業によって武器庫が復元され、温故創生館や長者山に休憩所が建設されました。今日、鞠智城は毎年10万人の見学者でにぎわっており、平成14年4月18日の温故創生館の開館以来、平成18年12月28日現在で、実質48万人の入館者を数えます。それ以前の兵舎仮展示場入館者及び来園のみの方を加えますと、優に100万人近くの方々が訪れました。

《鞠智城を国営公園に》 鞠智城跡は、古代山城として、全国に数少ない重要遺跡で、平成16年2月27日に国指定史跡になりました。国内の古代山城では、最も、調査と整備が進んでいることで知られます。立地面では、唯一、大型バスで、城内まで乗りつけられる大きな利点があります。熊本県の長年の努力により、歴史公園としての体裁は、今日、ほとんど整っています。しかし、さらなる施設の充実のためには、閣議の決定を経て、国が設置する国営公園を目指すことが、最善策と考えます。実際、発掘調査によって、72棟もの建物跡が発見されましたが、現実として、県の手による建物復元は、3棟に留まりました。武器庫や木造施設は、林野庁補助事業の賜物であります。このままですと、今後は、文化庁補助事業による限られた整備が精一杯です。そこで、先人が残してくれた全国に誇れる貴重な文化遺産の鞠智城跡を、より一層、活用していくためにも、鞠智城跡の国営公園化が、是非とも必要なのです。城門や政庁的な建物群を復元して、さらなる施設の充実化を目指そうではありませんか。

《国営公園の波及効果》 鞠智城の国営公園の実現により期待される波及効果を考えます。有明海に注ぐ全長71kmの菊池川は、玉名市～和水町～山鹿市～菊池市を遡り、阿蘇山の外輪山の深葉に源を発します。このルートは、『日本書紀』に記された景行天皇の巡幸順路と重なり、流域には、古代から中世にかけて育まれた数多くの歴史遺産があります。鞠智城の国営公園化が実現しますと、平成23年の「九州新幹線の全線開通」効果が最大限に生かされます。新玉名駅から、約50分で、鞠智城跡へ行くことが出来ます。鞠智城跡を拠点にして、周辺の歴史遺産を取り込む修学旅行のコースが設定されて、熊本県の観光に大いに寄与するものと思われます。和水町と山鹿市では、「肥後古代の森」地区の見学者増加にも繋がります。これらの地区では、国指定史跡の古墳が整備されて公園化が計られ、県立装飾古墳館もあります。玉名市では、全国で初めての整備となる「ドーム型の覆屋を持つ」国指定史跡の永安寺西古墳が、より注目を浴びることになるでしょう。菊池市でも、菊池氏一族関係の遺跡が、世間により一層、周知されるものと思われます。

《鞠智城は、海を渡る広域的な文化圏の中に》 鞠智城跡を核とする韓国との国際的な交流も、さらに活発化することが予想されます。中国にルーツがある八角形鼓楼は、韓国の二聖山城からも見つかりましたので、県からも調査員が出向き、旧菊鹿町では町議団が視察に向かいました。この間、学識経験者や地元との交流がありました。菊池市は韓国全羅北道金堤市と、和水町は同国忠清南道公州市と、それぞれ友好姉妹都市を結んでいます。特に、1971年に武寧王の古墳から出土した遺物は、和水町の江田船山古墳のそれに酷似しており、両国の繋がりを示すものとして有名です。この様に、鞠智城跡は、海を渡る広域的な古代文化圏の中にあるのです。城跡の持つ歴史の重みは、ここからも感じられます。

《国営公園の実現に向けて》 以上の事からも分かります様に、国指定史跡・鞠智城跡は、歴史的価値が極めて高く、国営公園としての体裁が、ほぼ整っています。実現後の波及効果も大なるものが予想されます。知事も申されています様に、今こそ、県民一丸となった取り組みが必要です。関係当局も、その為の条件として、「整備の段階で欠けているものは無いが、地元の盛り上がり、知名度のアップが必要」と指摘しています。国営公園の実現に向って、頑張りましょう。

## 目次

### 国営公園の基礎知識

1. 国営公園について・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 国史跡鞠智城跡の国営公園化に向けての取組みについて・・・ 4
3. 国営公園の事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
4. 国営公園（イ号・ロ号）の一覧表・・・・・・・・ 7
5. 平成18年度都市公園・緑地保全等事業予算額・・・・・・・・ 8

### 鞠智城跡について

1. 鞠智城の重要性・歴史公園としての鞠智城跡・・・・・・・・ 11
2. 鞠智城跡における遺構の配置・・・・・・・・ 12
3. 鞠智城跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
4. アジアの中の鞠智城跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
5. 「六国史」に記載された古代山城の実態・・・・・・・・ 19
6. 鞠智城の標高・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
7. 研究史年表・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
8. 発掘調査年表・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

### 鞠智城跡の整備事業について

1. 鞠智城跡整備事業の主な内容・・・・・・・・ 27
2. 鞠智城跡整備事業の性質・財源別予算額一覧表・・・・・・・・ 28
3. 鞠智城跡整備事業に導入した補助事業等一覧・・・・・・・・ 29
4. 温故創生館入館数の推移・・・・・・・・ 30

### 事例報告

- 吉野ヶ里遺跡の国営公園化に向けた取組み状況・・・・・・・・ 33

### 図版

1. 鞠智城跡調査の資料・・・・・・・・ 38
2. 鞠智城整備関係写真・・・・・・・・ 44
3. 鞠智城アクセスマップ・・・・・・・・ 52

### 期成会について

- 国営鞠智城歴史公園設置促進期成会資料・・・・・・・・ 55

国 営 公 園 の  
基 礎 知 識





## 1. 国営公園について

1. 定義：日本国で、都市公園法に定められた要件を満たす公園、又は、緑地。国（国土交通省）が設置。所管官庁は、国土交通省の都市地域整備局 公園緑地課。

2. 条件：都市公園法 第2条第1項で規定

第2条：「都市公園」とは、次に掲げる公園又は緑地で、その設置者である地方公共団体又は国が当該公園又は緑地に設ける公園施設を含む。

1項2号：次に掲げる公園又は緑地で、国が設置するもの。

イ：一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地（イ号）。

国営アルプスあづみの公園（2004.7）など11箇所（注）（イ）は、開園時期

ロ：国家的な記念行事として、又は、我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地（ロ号）。

国営飛鳥歴史公園（1974.7） 国営武蔵丘陵森林公園（1974.7）

国営沖縄記念公園（1976.8） 国営昭和記念公園（1983.10）

国営吉野ヶ里歴史公園（2001.4）

※鞠智城は、ロ号に該当することとなる。

3. 設置基準：都市公園法 第3条第3項で規定

第3条：地方公共団体が、都市公園を設置する場合に政令で定める。

都市公園の配置及び規模に関する技術的基準に適合するように行う。

第3項：国が設置する都市公園（第2条第1項第2号ロに該当するものを除く）は、政令で定める都市公園の配置、規模、位置及び区域の選定並びに整備に関する技術的基準に適合するように行う。

（注）除外対象の国家的な記念事業の国営公園は、閣議決定の内容に沿って整備される。統一的な基準を設ける事は難しく、必要性も認められない。国営公園は、国が設置する。

4. 維持管理：事例；佐賀県の国営吉野ヶ里歴史公園

1) 基本事項 ・土地所有：国が管理 ・公園の区分：国営と県営

2) 費用負担 ・土地買い上げ：文化庁補助で県 国交省は、補助対象外。

・整備費用の負担 公園施設 復元建物を含む 国交省  
史跡保存施設 県

・維持管理 管理財団へ管理委託 国交省

3) 管理事務所 国営地区：国交省が歴史公園事務所を設置。職員14名

## 2. 国史跡鞠智城跡の国営公園化に向けての 取組みについて

### 1 経緯

- H18.10. 中旬 かねてより国営公園化を前提として鞠智城の整備と調査を進めてきたところであるが、県教育委員会では、古閑三博県議会議員と協議のうえ、今後、国営公園化の取組みを始動することとした。
- H18.10.30 古閑三博県議会議員が、国営公園化を目指した取組みを進めるために県庁各課に協力を依頼。
- H18.11. 6 田中豊土木部都市計画課長が鞠智城を視察。
- H18.11. 8 冨田耕司土木部次長が鞠智城を視察。
- H18.11. 9 土木部次長が国営公園化に向けて、国土交通省に鞠智城の概要説明。
- H18.11.13 都市計画課長が、(財)公園緑地管理財団と国営公園化の手続き等について協議。
- H18.11.21 大田幸博装飾古墳館長が、前文化庁主任調査官の磯村幸男氏（現福岡県文化財保護課長）と協議。
- H18.12.21 土木部次長、総合政策局政策調整室長、都市計画課長、文化課長、装飾古墳館長、温故創生館長が国営吉野ヶ里歴史公園を視察
- H19. 1. 4 潮谷義子知事が年頭会見で「鞠智城の国営公園化を目指す」と発表。

### 2 当面の課題

- ・国営公園化に向けた条件の抽出とその整備及び県民の機運の醸成

### 3 今後の取組み

マスコミ等の積極的な活用を行い、県内をはじめ全国に向けて大いにPRを進める必要があり、シンポジウム等を計画している。

国営公園化の手続き等については、土木部都市計画課において、他の国営公園の設置経緯等を調査しながら進めていく。

### 4 鞠智城のこと

- ① 文化庁は、古代山城の国指定に極めて前向きである。昭和50年代から「古代ではあるが、当時の政府が築城した城塞である。従って、遺跡の保存と活用に際しては、国の機関である文化庁が責任を持つ」との見解が基本理念となっている。
- ② 鞠智城は、国内の古代山城の中で、最も、調査と整備が進んでいる。温故創生館では、「古代山城の情報発信基地としての役割を担う」との意識の中で活動を続けてきた。全国各地の古代山城を訪れて資料を集め、当該の調査員を招聘しての月毎の館長講座は、地道ながら大きな成果を上げている。
- ③ アクセス面でも、大型バスが横づけ出来るという、他の古代山城に無い大きな利点がある。さらに、立地の面では、集落に隣接することから、復元建物の建設を可能と

し、維持管理の面でも、極めて有利な条件下にある。

- ④ 県が主体となって、調査と整備に取り組んでいるのは、熊本県だけである。他県では、市と県とのすみ分けに悩み、事がうまく運んでいない。
- ⑤ 鞠智城では、一定基準の歴史公園が形造られており、国営公園の採択後に、巨費を投じての整備は無い。
- ⑥ 「遺跡の地名度が低い」とする指摘もあるが、この点に関しては、研究面でのたち遅れや熊本県の地理的位置、城跡が集落と共存する状況下にあった事などによる。金田城や北九州の古代山城は、先学者の存在と高山に位置したので、国指定が簡単であった。今後、鞠智城の知名度は、急速に高まるもの確信している。実際、発掘調査では、古代山城として国内初の発見が相次いでいる。八角形鼓楼建物跡・貯水場跡・貯木場跡の各遺跡や、木簡の発見などが、そうである。
- ⑦ 平成14年4月18日の温故創生館の開館以来、平成18年12月28日現在で、486,068人の入館者を数える。平成11年度からの兵舎における仮展示場から通算すると602,987人に達する。

## 5 鞠智城跡・国営公園の実現により期待される効果

有明海に注ぐ全長71kmの菊池川は、玉名市～和水町～山鹿市～菊池市へ遡り、阿蘇の外輪山に源を発する。川の流路は『日本書紀』に記された景行天皇の巡行順路と重なり、流域には、古代以来、育まれた数多くの歴史遺産がある。鞠智城・国営公園が実現しますと、様々な効果が期待できる。

- ① 鞠智城跡の知名度が、飛躍的に増大する。  
全国的に取り上げられる機会が増え、観光振興にも大きく貢献する。菊池川流域の歴史遺産にも、今以上に注目が集まり、和水町・山鹿市の「肥後古代の森」地区の見学者増加にも繋がる。
- ② 平成23年の「九州新幹線の全線開通」効果が最大に生かされる。  
新玉名駅から、約50分で鞠智城へ行ける。鞠智城跡を拠点にして、周辺の歴史遺産を取り込む修学旅行のコースが設定されて、熊本県の観光に大いに寄与するものと思われる。
- ③ これまで、熊本県が整備・管理してきた「歴史公園・鞠智城」に、国土交通省が加わる事により、全ての面でバージョン・アップが期待できる。

## 6 国営公園としての体裁は、既に整っている。

熊本県では、昭和43年から発掘調査を実施し、平成18年度で、28次を数える。この間、古代山城としては、国内初の発見が相次ぎ、整備事業も平成6年から実施してきた。この間、43.6haの用地を公有化し、八角形鼓楼を初めとする4棟の復元建物を建設して、様々な施設の充実化を図ってきた。事業は、継続中ですが、歴史公園としての体裁は、ほぼ整いつつある。後は、県民の意識向上あるのみ。

### 3. 国営公園の事業概要

公園の分類

公園	営造物公園	国の営造物公園	国民公園（皇居外苑・新宿御苑・京都御苑）	環境庁設置法
			国 営 公 園	都市公園法
		地方公共団体の営造物公園	都 市 公 園	
		その他の公園（特定地区公園など）		
地域制公園		自然公園（国立公園・国定公園・都道府県立自然公園）		自然公園法



#### 4. 国営公園（イ号・ロ号）の一覧表

##### 〈イ号公園〉

No.	名称	所在地	計画面積 (ha)	事業着手	都市計画決定	共用開始	開園面積 (ha)	入園料
1	淀川河川公園	大阪市5市1町、京都府大山崎町	962	S47	S51.9	S52.3	225.7	無料
2	国営海の中道海浜公園	福岡県福岡市	539	S50	S50.5	S56.10	230.2	有料
3	国営滝野すずらん丘陵公園	北海道札幌市	396	S53	S53.1	S58.7	186.4	無料
4	国営ひたち海浜公園	茨城県ひたちなか市	350	S54	S58.4	H3.10	116.0	有料
5	国営木曾三川公園	愛知県、三重県、岐阜県	6,108	S55	S56.10	S62.10	213.9	無料
6	国営みちのく杜の湖畔公園	宮城県柴田郡川崎町	647	S56	S57.12	H1.8	283.7	有料
7	国営備北丘陵公園	広島県床原市	340	S57	S60.1	H7.4	179.8	有料
8	国営讃岐まんのう公園	香川県仲多度郡満濃町	350	S59	S61.8	H10.4	111.4	有料
9	国営越後丘陵公園	新潟県長岡市	399	H1	H3.1	H10.7	119.6	有料
10	国営アルプスあづみの公園	長野県大町市、南安曇野郡	353	H2	H2.11	H16.7	(30.3)	有料
11	国営明石海峡公園	兵庫県神戸市、津名郡	330	H5	H6.12	H14.3	36.3	有料

##### 〈ロ号公園〉

No.	名称	所在地	計画面積 (ha)	事業着手	都市計画決定	共用開始	開園面積 (ha)	入園料
1	国営武蔵丘陵森林公園	埼玉県比企郡滑川町、熊谷市	304	S43	S43.3	S49.7	304.0	有料
2	国営飛鳥歴史公園	奈良県高市郡明日香村	61	S46	S46.7	S49.7	46.1	無料
3	国営沖縄記念公園 (首里城公園) (海洋博公園)	沖縄県国頭郡本部町、那覇市	82	S50	S51.3	S51.8	74.1	有料
4	国営昭和記念公園	東京都立川市、昭島市	180	S53	S56.11	S58.10	148.7	有料
5	国営吉野ヶ里歴史公園	佐賀県神埼町、三田川町、東脊振村	54	H4	H5.3	H13.4	19.4	有料

※開園面積は平成16年4月1日現在

## 5. 平成 18 年度都市公園・緑地保全等事業予算額

(単位:百万円)

	18年度(A)		前年度(B)		倍率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
国営公園	37,309	37,309	38,398	38,398	0.97	0.97
維持管理	11,205	11,205	11,314	11,314	0.99	0.99
整備	26,104	26,104	27,084	27,084	0.96	0.96
都市公園事業調査費	469	469	486	486	0.97	0.97
都市公園事業費補助	179,669	73,393	194,437	78,771	0.92	0.93
個別補助	133,445	53,718	143,778	57,298	0.93	0.94
統合補助	46,224	19,675	50,659	21,473	0.91	0.92
補助率差額	—	136	—	32	—	4.25
古都及び緑地保全	11,013	5,280	12,161	5,774	0.91	0.91
小計	228,460	116,587	245,482	123,461	0.93	0.94
緑地環境整備総合 支援事業費補助	13,265	5,370	12,710	5,215	1.04	1.03
合計	241,725	121,957	258,192	128,676	0.94	0.95

- (注) 1. 本表のほかに、防災公園街区整備事業に係る独立行政法人都市再生機構への出資金 4,500百万円（前年度 3,500百万円）が都市環境整備事業に計上されている。
2. 都市公園事業費補助の事業費には、防災緑地に係る都市開発資金による用地取得費 681百万円（前年度 1,234百万円）を含む。

# 鞠智城跡について

7世紀後半に西日本各地に築城された朝鮮式山城ちょうせんしきさんじょうの一つ。『日本書紀』にほんしょきによれば、大和政権やまとせいけんは朝鮮半島での、白村江はくすきのえの戦い（663年）以降、唐・新羅しんらの日本列島への侵略に備え、664年に防人さきもり、烽とぶひを設置し、水城みずきを築造。翌年には、大野城おおの、基肄城きい、長門城ながと、667年には屋嶋城やしま、金田城かねだ、高安城たかやすなど北部九州及び瀬戸内海沿岸に軍事拠点を築いた。鞠智城もその一つで、大宰府だざいふや大野城、基肄城に対して兵舎や物資を補給する後方支援基地として位置づけられる。

鞠智城の研究は、明和9年（1772）の『肥後国誌』ひごこくし原本の編纂からはじまった。寛政6年（1794）には『菊池風土記』きくちふどきを著した渋江公正よなばるが、その場所を米原村に求めた。驚くべき先見の明。

明治時代以降も、多くの先学者によって、場所探しが続けられ、昭和12年には、熊本県の考古学の草分けである、坂本経堯さかもとけいぎょうが「米原の地である」と発表。

このように、多くの先学者の研究を元に、昭和42年から県による発掘調査が開始され、今に至る。

鞠智城は、1300年前の国書に城名が記された由緒正しい遺跡です。昭和42年以降今日に至るまで、県によって学術調査が実施されてきた。古代日本の中で、東アジア外交史に位置づけられる国際的な史跡として極めて重要。





## 1. 鞠智城の重要性・歴史公園としての鞠智城跡

### 鞠智城跡の重要性

国内の古代山城では、初めての発見が相次ぎ、発掘調査も昭和42年度以来、今年度で28回を数える。

#### ①八角形鼓楼跡

南北方向に50mの間隔で2棟を検出（平成3年度）。類似の遺構は、韓国の二聖山城跡などから発見されており、古代における日本と韓国の文化交流の証としても注目された。

#### ②貯水池跡

城跡の北縁から、米原集落の西縁へ下る谷部から検出。総面積5,300㎡に及び、地下2～3mの粘土層から数多くの遺物が出土した。池そのものは谷部の周辺から流れ込む雨水や、地下からの湧水を貯水したものである。谷頭からは、湧水地点を囲む井戸枠（大型の建築材を利用）も発見された。

#### ③貯木場跡

貯水池を同時に貯木場として利用していたことも判明した。加工された数多くの建築用材や、土壁に用いる木舞の木棒も出土した。さらにロープ代わりのツタや、木製農具等が数多く出土した。

#### ④木簡

貯水池跡から「秦人忍<sup>米</sup>五斗」と墨書された木簡が出土した。結果として、城地の隣接地に渡来人の秦人一族が居住していた事や、鞠智城に納税していた事実が明らかになり、城の性格をめぐって、政庁跡の可能性が取り沙汰される等、大きな話題を提供した。

### 歴史公園としての鞠智城跡

①八角形鼓楼、米倉、兵舎、武器庫の4棟を復元。

②本格的なガイド施設として温故創生館を建設。古代山城では唯一、鞠智城のみである。長者山には、奈良時代の建物を模した休憩所を建設。

③園路も年次計画を立て、場内の周回コース完成を目指し、順次、設置している。

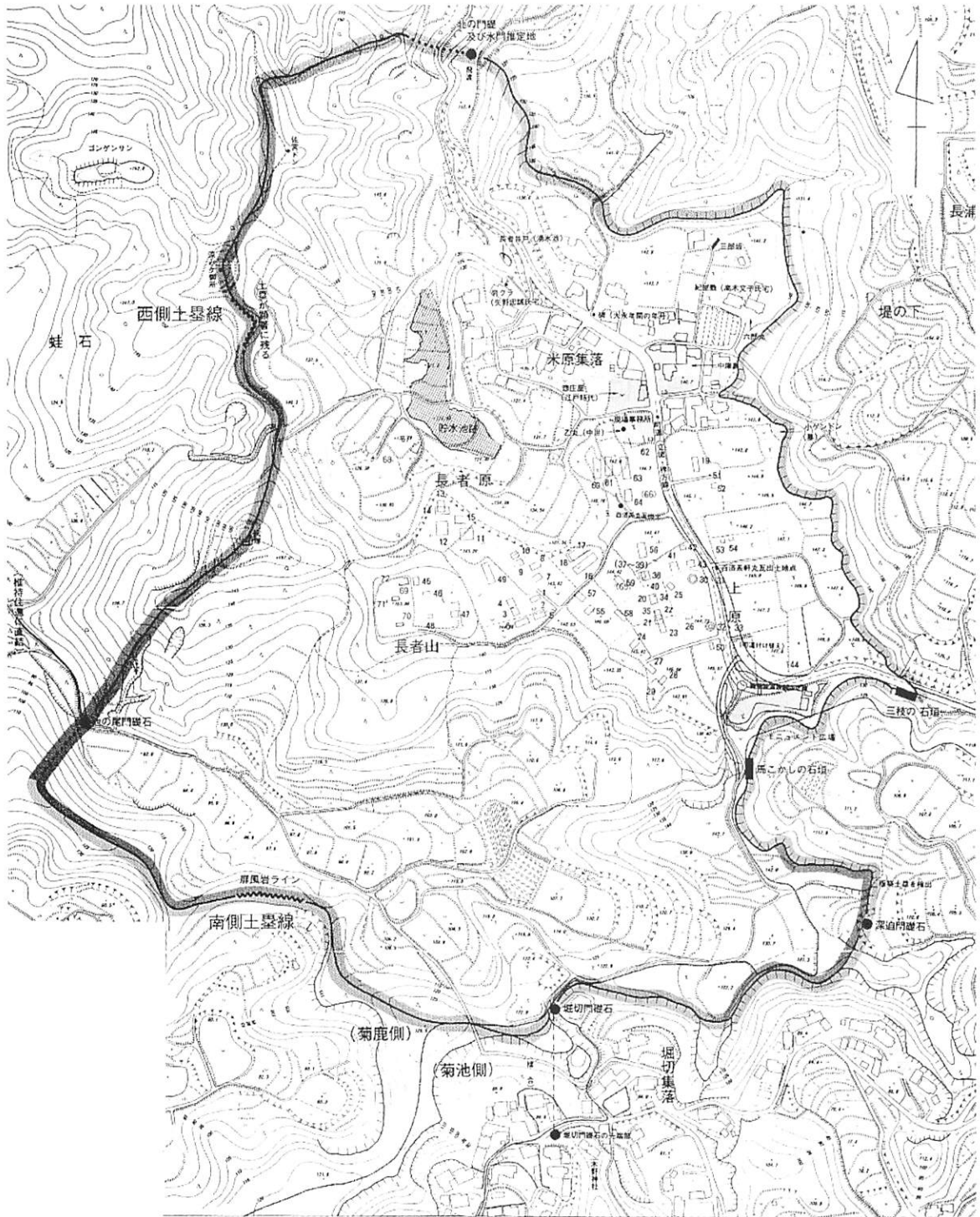
④年間10万人の入場者数があり、隣県の福岡や佐賀からも多くの見学者が訪れ、観光名所にもなっている。

⑤平成23年に、福岡～八代間の九州新幹線が開通予定。玉名駅から鞠智城まで50分。より多くの県外の旅行者の来園が望める。

⑥近隣には、菊池温泉、山鹿温泉、合瀬川温泉があり、多くの宿泊客が旅館の送迎バスで鞠智城まで足をのぼしている。旅館組合の協力により、この方式は確立した。

⑦丘陵地に位置するため、城内へ直接バスの乗り入れが出来る。老若男女問わず気軽に来園出来る強味がある。

## 2. 鞠智城跡における遺構の配置



鞠智城パンフレット（平成9年7月発行）に追記

0 200m

### 3. 鞠智城跡の概要

#### 1 はじめに

熊本県の山鹿市菊鹿町米原と菊池市木野にまたがる鞠智城跡は、7世紀後半に西日本各地に築城された朝鮮式山城の一つ。『日本書紀』によれば、大和政権は朝鮮半島における白村江の戦い（663年）以降、唐・新羅の日本列島への侵攻に備え、664年に防人、烽の設置及び水城の築造、翌年には、大野城、基肄城、長門城、そして667年には屋嶋城、金田城、高安城など、北部九州及び瀬戸内海沿岸に軍事拠点を築いた。鞠智城も、その中で、西海道諸国（現、九州地方）を統括した大宰府や大野城、基肄城に対して兵士や物資を補給する後方支援基地と位置づけられている。

#### 2 文献から見た鞠智城

奈良・平安時代の国書に記載された城跡である。初見は、797年に編纂された『続日本紀』で、「文武天皇2（698）年に、大和朝廷が大宰府に命じて大野、基肄、鞠智の3城を修理した」とある。これが、「665年築城」と明記された大野、基肄の2城と同時期の築城と考える一つの根拠となっている。

次の『文徳天皇実録』天安2（858）年6月の条には、「兵庫の鼓が自ら鳴る」「不動倉11宇火く」といった奇怪な現象や事件が肥後国から中央政府に対して報告されたことが記されている。平安時代に入ると、律令体制の緩みが生じて、不動倉の火災もそういう状況の中で捉えられる。『日本三大実録』元慶3（879）年3月の条にも、「兵庫の鼓自ら鳴る」と報告され、これを最後に国書から姿を消す。文献記録からは、200年以上の城歴が考えられる。

#### 3 調査・研究等の略歴

##### 1) 研究のはじまり

所在地すら忘れられていた鞠智城は、江戸時代後半から、渋江公正などの学者によって地名や伝承をもとに論じられ始めた。本格的な研究が始まったのは、昭和に入ってからである。

大阪毎日新聞の記者、中島秀雄や熊本地歴研究会による踏査で、鞠智城を米原一帯に求める動きが高まるなか、それを決定付けたのが、熊本県の考古学の草分け、坂本経堯（泗水町出身）である。現地を丹念に踏査した坂本は、昭和12年、「鞠智城址に擬せらる米原遺跡に就て」において、米原の地が鞠智城跡であるとの見解を発表した。

昭和13年には、地元、城北村の松尾條規村長を会長とする城北村史蹟顕彰会が標木を立て保護顕彰に努め、昭和28年には、福岡県の考古学者の鏡山猛が「鞠智城の調査保護計画」を県へ陳情するなど、遺跡保護に向けた取り組みが活発化した。こうした状況のなか、

熊本県教育委員会は、昭和33年に、長者山礎石群と深迫門礎石を「伝 鞠智城跡」として県史跡に指定した。

## 2) 調査の開始

昭和40年代に入り、米原一帯の開田工事と長者山の一部開発により鞠智城跡の遺構が一部消失するという事態に直面した。そこで、県教委では、昭和42年～44年度にかけて、当時、熊本女子大学教授であった乙益重隆氏を調査団長とする「鞠智城調査団」を組織し、発掘調査を実施した。本格的な学術調査の始まりである。

多くの地点で城の構造解明を視野に入れた調査が実施されたが、特に、宮野地区では3間×9間の礎石建物跡、長者山地区では2間×4間の礎石建物跡や多量の炭化米が見つかるなど、より具体的な構造が明らかとなった。これらの調査によって、考古学的にも城域が米原一帯に広がることが立証され、昭和51年、県指定名称が「伝 鞠智城跡」から「鞠智城跡」に変更された。

## 3) 調査の継続

昭和54年に、鞠智城跡を縦断する町道の拡幅工事が計画され、菊鹿町教育委員会で調査が実施された。このころ文化庁から「国指定へ向けての本格的な調査に取り組むように」との指示があり、県では国庫補助を受けて2ヶ年の確認調査を実施した。昭和56年度には宮野礎石群の調査を行ない、県史跡に追加指定した。翌年度には、これまでの調査成果をまとめた総合的な調査報告書を刊行した。

再び調査が始まるのは、昭和61年度からで、これ以降、鞠智城跡では毎年調査が実施されている。平成2年度からは従来の国庫補助事業に加え、県の自主事業である重要遺跡確認調査も加わり、長者原地区全域に調査規模が拡大された。多くの建物遺構や遺物が発見され、八角形建物跡など、代表的な遺構が見つかったのもこの頃である。これまでに、72棟にも及ぶ建物跡が検出されるなど多大な成果が上がった。

## 4) 整備の開始

平成6年度、『県総合計画』の中で、「歴史公園化を目指した調査・整備」が唱えられた。

県教委は、学識経験者による「鞠智城跡保存整備検討委員会」を組織し、『鞠智城跡保存整備基本計画』を策定した。そして、歴史公園の目玉となる長者原地区の整備を開始した。

平成6年度から4カ年計画で、土地の公有化を図り、平成7年度のモニュメント広場から整備事業に着工し、遺構保護のため礎石の保存処理と埋め戻し工事を実施した。また、全盛期の景観を復元することを目指して、平成9年度に米倉、平成10年度に兵舎、平成11年度に八角形鼓楼、平成12年度に武器庫を建設した。平成11年4月には兵舎を「仮展示場」としてオープンするなど活用に向けた取り組みも始めた。

平成14年4月には、待望のガイダンス施設「温故創生館」が開館した。その後、「長者山展望広場休憩所」、「灰塚展望所」、「研修施設」も完成し、平成17年度からは、園路整備を始めるなど、次第に歴史公園としての姿が整いつつある。

## 5) 調査の現在

平成9年度には、北の谷部から5,300㎡の規模を有する貯水池跡が発見された。この年を境に、鞠智城跡の発掘調査は、貯水池跡の構造調査や門跡を含む外郭構造の調査へと移り、現在に至る。

これまでに、堀切門跡や南側・西側の土塁線の調査が終わり、堀切門跡では門の支柱穴の発見や土塁線において版築土塁が見つかった。また、貯水池跡でも、建築材等を水に浸した貯木場、水汲み場である木組遺構、池を細部に仕切る堰堤、取水口や石敷遺構などの導水施設、池を囲む柵列が見つかるなど、池構造の解明に繋がる発見が相次いでいる。さらに、平成17年度には、池の尾において、鞠智城跡では初の水門が見つかった。

## 4 これまでの成果

### 1) 位置と地形

鞠智城跡は、有明海に注ぐ菊池川の河口から約30km上流にある台(うてな)台地の基部、「米原台地」を中心に立地する。南には、肥沃な山鹿・菊池平野が拡がり、遠くに有明海に面する金峰山が見える。南の平野部との高低差は100m程で、同時代に築かれた大野城や基肆城が標高400m級の山に築かれているのに比べ、非常に低い立地である。北には、八方ヶ岳を主峰とする1,000m級の山々が連なる筑肥山地が望める。

八方ヶ岳の西南麓は、上内田川、木野川など、多くの小河川が入りくみ、複雑な地形を形成している。木野川の支流、初田川の小盆地やその小谷に面する米原台地は、標高145m前後の高地にすぎないが、河川の浸食作用による深く湾入した谷や急峻な崖線で区切られ、周辺の地形から独立した趣がある。この天然の要害の自然地形をうまく利用して築かれたのが、鞠智城跡である。

### 2) 城域について

南を堀切集落の後背にそびえる凝灰岩の崖線、そこから北西方向の低山の尾根をつたい、西を初田川流域の小盆地、さらに、北から東にかけては、米原川の浸食谷により区切られている。東西約1.6km、南北約1.3kmの範囲にわたる。

また、南の崖線の中途から北に分かれ、池の尾で谷を渡り、西から北へ延びる灰塚、涼みヶ御所、佐官どんといった地名を残す低山の尾根、東を台地縁の崖線が区切っており、周長約3.5kmに達する。現在、この範囲を真の城域とし、「内城地区」と呼び、その外縁部を「外縁地区」とする。

### 3) 発掘調査

#### ① 建物

鞠智城跡の中心となる長者原を中心に、これまでに72棟分もの建物遺構を検出した。

形態による内訳は、掘立柱建物跡47棟、礎石建物跡24棟である。掘立柱建物跡は、

2形態に分類され、総柱が16棟、側柱のみが26棟となる。側柱スタイルでは1面底が2棟あり、また、建て替えを含む八角形建物跡の3棟分が掘立柱となる。礎石建物跡はすべて総柱で、側柱を掘立柱とするのが3棟、八角形建物跡が1棟ある。49号（宮野礎石群）は、3間9間と長倉形式の大型建物跡である。

これら建物遺構のうち、長者原地区の北端近くでは、溝で区画された5棟の一群が見つかっている。上原地区の1棟を加えると、南方向に開くコの字形配置となり、城内のなかでも特別な機能を持つ建物群と推察されている。

## ② 城門

門礎石の存在から、深迫、堀切、池の尾の3箇所によく求められており、城域北端部の谷筋にも地理的要因からその存在が想定されている。

深迫の調査では、開口地形の谷を狭める版築土塁と、その谷底を利用した道路跡（登城道）を検出した。このほか、南縁に方形堀形の柱列を検出したが、また、門礎石の原位置はつかめていない。

堀切の調査では、2段構造の城壁（版築でテラスを形成）、岩盤掘り込みの屈曲を伴う道路跡、門支柱の方形掘方を検出した。掘方は、後世の道路跡で削平されていたが、残存幅が門礎石幅と符合し、礎石が据えられた可能性が高い。掘方前面には約1mの段差があり、岩盤掘り込みの階段式か懸門式の門が想定される。

池の尾の調査では、鞠智城跡で初めてとなる水門跡を検出した。約9m幅の城壁に直交する暗渠構造の通水溝が付設された構造で、崩れているが数段の石積みも想定される。門礎石の原位置は、市道下と推定している。

## ③ 土塁

南側土塁線と西側土塁線の調査で、内托式の版築盛土で構成され、基底部からは、土留めの礫を並べる構造を確認した。

南側は、土塁高が約7～8mで、中位にテラスを持った2段構造となっている。堀切門跡の城壁と同様な構造である。土塁頂部には、夾築式の土塁があり、「内托式+夾築式」で城壁を高く見せる工夫がなされていることが分かった。

西側は約3mと低く、内托式のみの構造となる。土塁裾部の列石にもやや間隙が見られ、略化されている。さらに、土塁頂部及び裾部から堰板の支柱穴列が検出されたので、土塁構築の技法を推察できる資料が得られた。内側列石も検出した。内城側を削平させることで雨水対策していたことが分かった。南側と西側は、積土及び列石石材において相違点が認められ、基本的には周辺の土壌及び岩盤に左右されることが判明した。

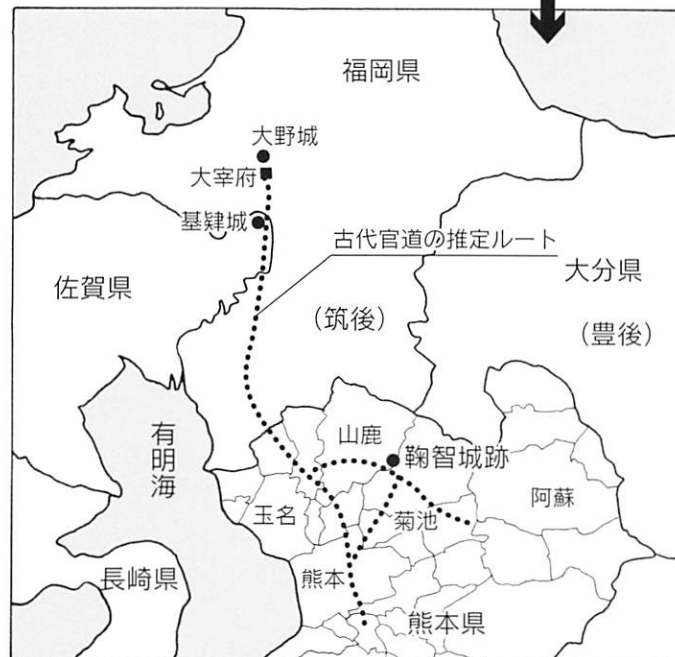
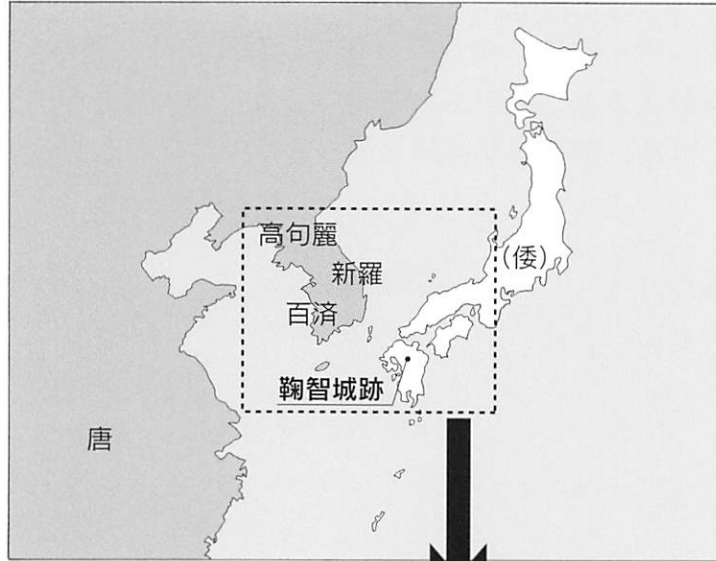
## ④ 石塁

2箇所の「馬こかし」・「三枝」で確認されている。3次調査において測量調査が実施されたが、後世の産物である可能性が高いとの見解が為された。三枝石塁は城外に築く点で、可能性は高いが、馬こかし石塁は外郭線上で、舌状丘陵を分断する谷地形に位置することから、守備面での必要性が問われる。積み石の一部には、横目地が通っており、同時代のものか、今後、調査を伴う詳細な検討が必要である。

## ⑤ 貯水池

約5,300㎡の面積を有している。基本的には自然湧水によるもので、取水口や水の勢いを緩和させる石敷遺構の存在から、渇水期には、長者山北の支谷から導水していた可能性のあることが分かった。また、小規模な堰堤の存在から、各所で間仕切りを設けて貯水量を調整したことが想定され、飲用水は勿論のこと、建築材等を水浸けした貯木場など、多用途の使用が認められる。池の周りに柵を巡らせていたことも明らかとなっている。

#### 4. アジアの中の鞠智城跡





## 5. 六国史にみる古代山城の実態

城名	所在地	比高差(m)	全周(km)	中心地の標高(m)	立地	現在の利用状況
鞠智城跡	熊本県山鹿市菊鹿町	40～118	3.5	温故創生館・鼓楼(145m)	台地	歴史公園
鬼ノ城跡	岡山県総社市奥坂ほか	250～345	2.8	鬼城山(397m)	山地	一部復元、ハイキング
屋嶋城跡	香川県高松市屋島町	260～280	3.9	南嶺(292m)	山地	屋島寺境内
大野城跡	福岡県大野城市瓦田ほか	115～360	6.3	四王寺山(410m)	山地	県民の森、ハイキング
基肆城跡	佐賀県三養基郡基山町ほか	110～330	4.3	防住山(404.5m) 北帝(414m)	山地	草スキー場、ハイキング
金田城跡	長崎県対馬市	25～276	2.2	城山(275m)	山地	ハイキング

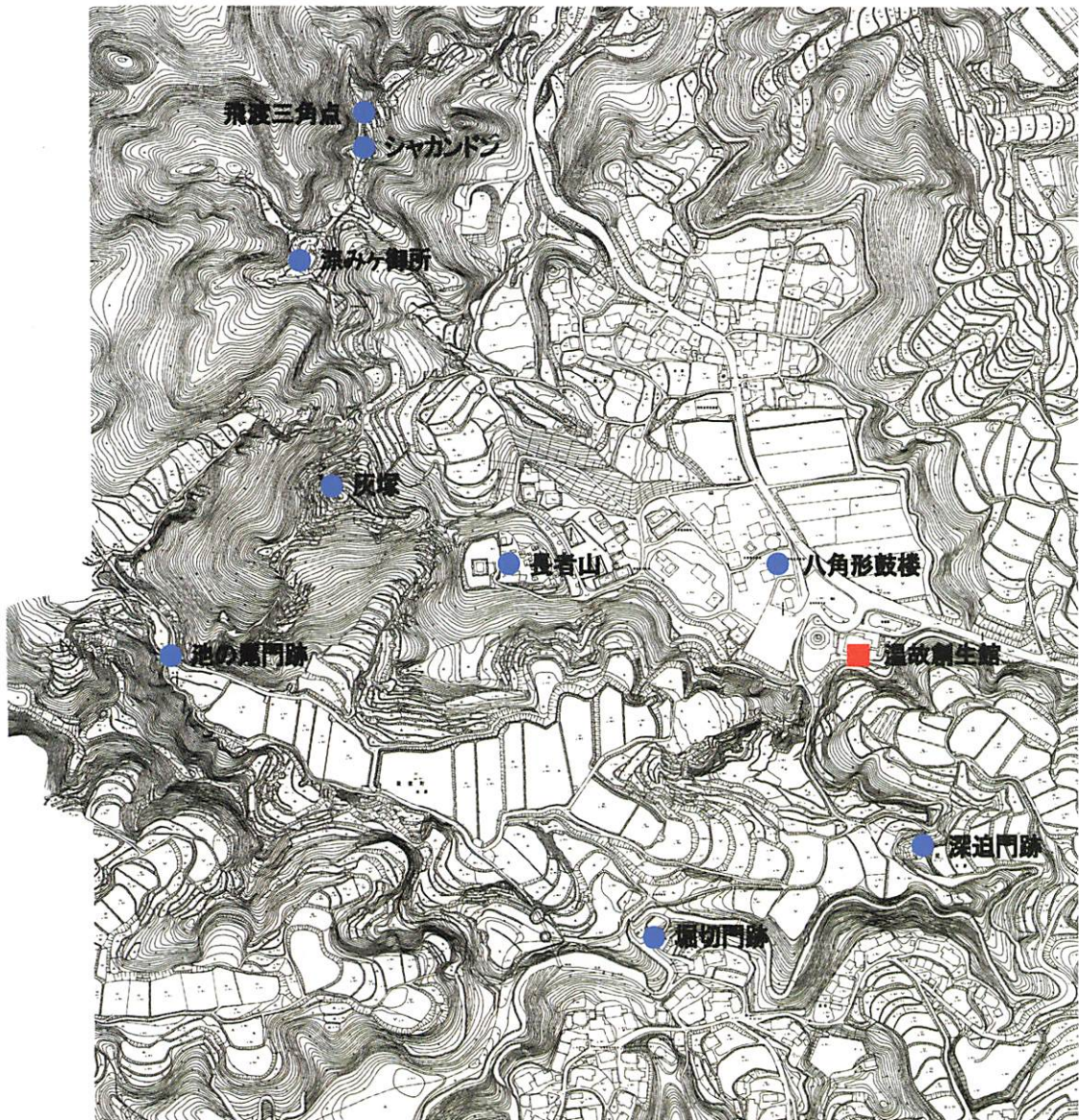
①アクセス:鞠智城跡のみが、唯一、大型バスで城内へ乗り入れる事が出来る。

(交通網)熊本空港から40分、九州縦貫自動車道菊水インターから45分。  
九州新幹線が開通した場合、新玉名駅から約41分

②古代山城を国営公園とするには、立地条件から鞠智城跡を除いて他にない。

③整備も最も進展している。

## 6. 鞠智城跡の標高



地点	標高(m)	地点	標高(m)
温故創生館	145.52	シャカンドン	171.10
鼓楼	145.68	飛渡三角点	168.89
長者山	155.12	深迫門跡	123.49
灰塚	165.10	堀切門跡	121.83
涼みヶ御所	167.05	池の尾門跡	90.65

## 7. 研究史年表

年度	年号	研究者など	文献など	内容など
1772	明和9年	森本一端	『肥後国誌』追補 ※原本は江戸時代後期に編纂。	深川説を否定して、鞠智城は兵庫や不動倉などをもっている官城であるので、菊池市隈府、菊池市七城町水島、山鹿市菊鹿町米原の一带にわたる広大な地域を占めるものであろうとみている。
1794	寛政6年	渋江公正	『菊池風土記』	『文徳実録』天安二年閏二月の条に記載のある「不動倉 11 宇火」を米原村長者屋敷に比定。
1846	弘化3年	八木田桃水	『桃元問答』	「菊池の初代則隆以来の居城となった深川の菊之城は、鞠智城の旧跡を取りしつらひて居城としたとも考えられるが、城家の居城であった木庭村も鞠智城の旧跡か」と述べている。
1900	明治 33 年	吉田東伍	『大日本地名辞書』	「鞠智城を辺地の肥後国菊池郡に求めるのは、大野城を豊後国大野郡に求めるのと同じである」と笑っている。
	昭和初期	中島秀雄	大阪毎日新聞	「米原の要害こそ『続日本紀』文武天皇2年5月、大野、基肄城とともに繕治された鞠智城であろう。礎石の並ぶ山、多くの礎石が出た畑、焦米が層をなして埋まっている畑、涼みヶ御所、烏ヶ城、シャカンドン、紀屋敷、宮床、馬洗淵、長者井戸などの地名がある」と報じている。
		熊本地歴研究会		基肄城跡を踏査して米原における遺構と比較し、基肄城跡の研究者久保山善映氏や松尾禎作氏等も米原の遺構を踏査した。「長者の的石（現、深迫門礎石）」が朝鮮式山城の門礎石であることを確認。
1937	昭和 12 年	坂本経堯	『地歴研究』 第 10 篇第 5 号	「鞠智城址に擬せられる米原遺跡に就いて」を發表。
1942	昭和 17 年	坂本経堯	『日本談義』 通巻 51 号	「鞠智城考」を發表。 鞠智城の文献を集録して性格を考え、米原にある東、南、西の城門礎、水門礎、長者山の礎石間尺、土塁線などは朝鮮式山城の規模に類し、焦米の多量の埋没は、「天安2年6月、不動倉 11 宇火く」の史実を物語っているとした。特に土塁線は自然尾根を利用して外側を切り落とし、鞍部にのみ盛土した状態であることに注意し、さらに土塁線は米原台地周辺だけでなく、これを内郭として土塁線は頭合より木野丘陵を北に登って城北の谷をいただく外郭を形成することに注目した。
1953	昭和 28 年	坂本経堯	熊本史学会	「鞠智城跡について」を發表。
1956	昭和 31 年	島田正郎	講演（菊池市）	「高句麗国内城と鞠智城」と題して講演。
1958	昭和 33 年	坂本経堯	『熊本の歴史』 熊本日日新聞社	「鞠智城跡を米原に求めて」を登載。
1959	昭和 34 年	県教育委員会		12月8日付けで、「伝鞠智城跡」として長者山礎石群、深迫門礎石を県史跡に指定。
1976	昭和 51 年	県教育委員会		8月24日付けで、県史跡名称を「鞠智城跡」と改称。
1981	昭和 56 年	県教育委員会		11月11日付けで、宮野礎石群を県史跡に追加指定。
2004	平成 16 年	文化庁		2月27日付けで、「鞠智城跡」として国史跡に指定。

## 8. 発掘調査年表（1）

調査年度	次	地区	遺構など	概要	調査組織
S42	1	池の尾門 深迫門  堀切門 西側土塁	池の尾門礎石 深迫門礎石 馬こかしの石垣 三枝の石垣 堀切門礎石 佐官どん礎石群	・昭和40年代に始まった米原台地の水田化工事（農業構造改善事業）に伴う緊急調査を実施。 ・城の外郭線の確認。 ・米原地区の測量図作成 ・門礎石の実測、石垣の測量。	熊本県教育委員会 （鞠智城調査団）
	2	集落 長者原	少監どん、紀屋敷 長者原礎石群 宮野礎石群	・長者原で礎石群を確認。 ・宮野の礎石列の確認。瓦片が出土。	熊本県教育委員会 （鞠智城調査団）
S43	3	深迫門 西側土塁 長者原 長者山 本分集落	道路跡・土塁推定地 佐官どん礎石群・土塁 長者原礎石群 長者山礎石群（御金蔵） 阿高礎石群推定地	・昭和42年末から昭和43年にかけての長者山西側一帯の開墾、昭和43年4月の深迫一帯の水田化工事に対する緊急調査を実施。 ・長者山礎石群の実測。 ・深迫門周辺の確認。 ・阿高礎石群の発見。 ・西側土塁線等の断面図作成。	熊本県教育委員会 （鞠智城調査団）
S44	4	長者原  長者山	長者原礎石群 宮野礎石群 長者山礎石群。	・長者原礎石群の実測。 ・宮野礎石群の露出及び実測。 ・長者原礎石群の露出及び実測。 →昭和51年8月24日付けで「伝鞠智城跡」から「鞠智城跡」へ県指定名称を変更。	熊本県教育委員会 （鞠智城調査団）
S54	5	長者原 上原	掘立柱建物跡 道路状遺構	・町道（立徳・稗方線）改良工事に伴う事前調査を実施。 ・城跡内で初めて軒丸瓦片を出土。	菊鹿町教育委員会
S55	6	上原	竪穴遺構（弥生）	・上原地区で弥生時代の遺構を確認。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助
	7	長者原	宮野礎石群	・宮野礎石群の全面露出。 →昭和56年11月11日付けで県史跡に追加指定。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助
S61	8	長者原 ほか		・航空写真撮影による米原地区の地形図作成作業。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助
S62	9	長者山	45～48号建物跡	・長者山礎石群の調査を実施。 ・多量の炭化米と瓦が出土。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助
S63	10	長者原 上原	11～15号建物跡 19号建物跡	・宮野礎石群北側において、中心部が礎石、周辺に掘立柱の底をもつ建物跡（11、12号建物跡）を検出。 ・上原地区「少監どん」において建物跡（19号建物跡）を検出。 ・城跡内で始めて掘立柱建物跡の存在を確認。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助
H1	11	長者原	1～4号建物跡	・宮野礎石群南側において、掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡1棟を検出。 ・掘り込み地業跡（4号建物跡）を確認。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助
H2	12	長者原	5～10号建物跡 16～18号建物跡 11～15号建物跡	・県の自主事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積が大幅に増大。 ・宮野礎石群南、南西部一帯において掘立柱建物跡9棟を検出。 ・3間10間の城内最大の掘立柱建物跡を検出。 ・11～15号建物跡の再調査を実施。	熊本県教育委員会 （文化課） *文化庁国庫補助

## 発掘調査年表（2）

調査年度	次	地区	遺構など	概要	調査組織
H3	13	長者原	20～35号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道西側一帯の調査。</li> <li>・掘立柱建物跡9棟、礎石建物跡6棟、掘立柱・礎石併用1棟を検出。</li> <li>・八角形建物跡4棟（掘立柱3棟、礎石1棟）を検出。</li> <li>・軒丸瓦片が出土。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H4	14	長者原 上原 西側土塁	36～44号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘立柱建物跡7棟、礎石建物跡1棟</li> <li>・鞠智城の終末期にあたる9世紀代の礎石建物跡（36号建物跡）を検出。</li> <li>・上原地区から遺構の空白地帯が見つかる。</li> <li>・西側土塁線を測量。一部で試掘。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H5	15	上原	51～54号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道東側の上原地区の調査。</li> <li>・掘立柱建物跡4棟を検出。</li> <li>・上原地区の南側は遺構の空白地帯であることが判明。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H6	16	深迫門	版築土塁 道路跡 柵跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深迫門礎石周辺の調査。</li> <li>・谷部を遮蔽する版築土塁を検出。</li> <li>・谷部中央に道路跡（登城道）を検出。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H7	17	長者原 上原	竪穴住居跡1基（弥生） 掘立柱建物跡3基（弥生） 50号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礎石基底部に根石を配して構築された礎石建物跡（50号建物跡）を検出。</li> <li>＊同様の工法は、20～22、38、49号建物跡（宮野礎石群）の一部に採用。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H8	18	長者原  貯水池	55～58号建物跡 1～3号土坑 1号不明遺構 水成粘土層	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡1棟を検出。</li> <li>・56号建物跡において整地層を確認。</li> <li>＊整地層及び礎石掘り込み出土遺物のうち新しいものは8世紀後半～9世紀前半。</li> <li>＊同遺構下層の出土遺物が7世紀後半～9世紀前半の時間幅をもつことから、その下層建物跡（整地層）の年代を、創建期に近い時期から56号建物跡の直前までの使用を推定。</li> <li>・須恵器高杯1個体が埋納。</li> <li>・56、59、65号建物礎石の原材採集地の検討。</li> <li>・貯水池跡の範囲確認。</li> <li>・貯水池跡で1号木簡を検出。「秦人忍口五斗」</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H9	19	長者原  貯水池	40、59～66号建物跡 6、7号溝跡 貯木場跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長者原地区において掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡4棟を検出。</li> <li>・59、64、66号礎石建物跡で、整地層を確認。</li> <li>・溝で区画された建物群（管理棟的建物群）を確認。建物跡をL字に配置。</li> <li>・40号建物跡→6号溝→7号溝→36号建物跡の変遷を確認。（4時期に区分可能）</li> <li>・64号建物跡の周溝から、軒丸瓦出土。</li> <li>・貯水池跡の本格的調査を開始。</li> <li>・建築材、横槌、鋸の膝柄、曲柄平鋸等を検出し、貯木場を確認。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H10	20	貯水池  堀切門	貯木場跡 取水口 石敷遺構 城壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継手、仕口加工のある建築材を検出。</li> <li>・木舞、男根状木製品、斧柄を検出。</li> <li>・小谷から水を取り込む取水口を検出。</li> <li>・池底に礫を敷き、水勢を調整。</li> <li>・堀切門跡にて2段構造の城壁を確認。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助

### 発掘調査年表（3）

調査年度	次	地区	遺構など	概要	調査組織
H11	21	貯水池 堀切門	貯水池跡 道路跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池跡西南端部を確認。</li> <li>・貯水池跡にて2～4号木簡を確認。</li> <li>・門周辺の道路跡を検出。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H12	22	貯水池 堀切門	木組遺構 堰堤跡 門の支柱穴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湧水地点を囲う木組遺構（水汲み場跡）を検出。</li> <li>・堰堤跡を断面上で確認。 ＊水量を調整するため小区画を設けた構造を推定。</li> <li>・門礎石の原位置を把握。</li> <li>・道路跡の延長を把握。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H13	23	南側土塁 長者山 貯水池	版築土塁 70～72号建物跡 68、69号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南側土塁線西端部において、土塁構造を確認。 ＊版築、削り出しによる2段構造、石列、柱穴等を確認。</li> <li>・長者山西側において、掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡1棟を検出。</li> <li>・貯水池地区において、掘立柱建物跡1棟、礎石建物跡1棟を検出。</li> <li>・堰堤等を平面的に検出。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助
H14	24	長者山 貯水池	72号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・72号建物跡上面に炭化米堆積層を確認。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （装飾古墳館） ＊文化庁国庫補助
H15	25	西側土塁 貯水池	版築土塁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西側土塁線北端部（シャカンドン）において、土塁構造（版築土塁）を確認。 ＊裾部に列石、前面、背面に柱穴が検出され、工法等を検討。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （装飾古墳館） ＊文化庁国庫補助
H16	26	池の尾門	石列 盛土遺構	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礫・石群のうち3石で構成される石列を検出。</li> <li>・基底部が石敷きの盛土遺構を検出。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （装飾古墳館） ＊文化庁国庫補助
H17	27	池の尾門	石塁 通水溝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通水溝が検出され、水門構造を確認。 ＊城内で初めての発見となる。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （装飾古墳館） ＊文化庁国庫補助
H18	28	池の尾門 深迫門	通水溝 土塁 馬こかしの石垣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池の尾門において、排水口と石積みの確認。</li> <li>・深迫門礎石原位置の推定。</li> <li>・馬こかしの石垣の再実測・再調査。</li> </ul>	熊本県教育委員会 （文化課） ＊文化庁国庫補助

# 鞠智城跡の 整備事業について

平成5年に策定された『熊本県総合計画』に「鞠智城の調査と整備を行う」との項目が折り込まれ、これから今日の鞠智城跡整備が始動。

## 《参考》

熊本県総合計画「ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと」(抜粋)

### 第3編第2章3 (5) 歴史・文化遺産を核とした地域づくりの推進

歴史公園化を目指した「鞠智城跡」の調査・整備を促進するなど、歴史・文化遺産を核とした魅力ある地域づくりを、地域と一体となって進めていきます。

### 第4編第4章5 (2) 文化遺産の保存と活用

歴史公園化を目指し、古代大和朝廷によって築城された「鞠智城跡」(菊鹿町)の調査・整備を促進します。

また、古代遺跡などの調査を推進します。





# 1. 鞠智城跡整備事業の主な内容

年度	復元建物等	その他事業	用地買収面積(m <sup>2</sup> )	用地関連	備考
6		第1次基本計画	75,676.22		
7	モニュメント(温故創生の碑)	第1次基本設計 モニュメント広場整備	86,142.69		
8	便所整備	礎石保存処理及び埋め戻し	130,750.00	境界杭	
9	米倉(H8～H9)	長者原地区園路整備	135,230.00	境界杭	
10	兵舎(H9～H10)	長者原地区芝張り、遺構明示		境界測量	
11	鼓楼(H10～H11)	仮設駐車場、解説版	425.00	境界測量	
12	武器庫	長者原地区北側地形復元、芝張り、門礎石保存処理		境界測量	
13	ガイダンス(H12～H13)	第2次基本計画 管理棟的建物群地区地形復元、芝張り	3,070.00		
14	長者山展望広場休憩所	長者山展望広場芝張り	4,194.00		史跡指定申請
15	研修施設(H14～H15)	第2次基本設計、灰塚園路	839.00		史跡指定答申・告示
16		中央であいの広場駐車場			
17		長者原地区から南側土塁方面への園路(3ルート)			
18		南側土塁方面へ周遊する園路			

## 史跡鞠智城跡用地区分

平成18年11月30日現在

区分	面積(m <sup>2</sup> )
国指定面積	648,021.04
民有地	168,676.54
公有地	311.00
国有地	436,326.91
県有地	10,499.00
市有地	447,136.91
公有地計	30,038.75
里道	2,168.84
水路	
内訳	

## 2. 鞠智城跡整備事業(当初・補正予算)性質・財源別予算額一覧表

(単位:千円)

	予算(当初・補正)総計										発掘調査										整備及び用地取得等										管理運営経費	
	総額	国費	県費			その他	総額	国費	県費			その他	総額	国費	県費			その他	総額	国費	県費			その他	総額	県費(一才)						
			一才	県費	繰入金				一才	繰入金	計				一才	繰入金	計				一才	繰入金	計				一才	繰入金	計			
																														一才	繰入金	計
S61	2,000	1,000	0	0	1,000	0	2,000	1,000	0	1,000	0	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
S62	3,000	1,500	0	0	1,500	0	3,000	1,500	0	1,500	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
S63	3,000	1,500	0	0	1,500	0	3,000	1,500	0	1,500	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
H元	3,000	1,500	0	0	1,500	0	3,000	1,500	0	1,500	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
H2	13,012	1,506	0	0	11,506	0	13,012	1,506	0	11,506	0	11,506	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
H3	12,662	1,331	0	0	11,331	0	12,662	1,331	0	11,331	0	11,331	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
H4	13,000	1,500	0	0	11,500	0	13,000	1,500	0	11,500	0	11,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
H5	19,400	9,700	0	0	9,700	0	19,400	9,700	0	9,700	0	9,700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
H6	41,020	10,000	0	0	31,020	0	20,000	10,000	0	10,000	0	10,000	0	0	0	0	21,020	0	0	0	0	21,020	0	0	0							
H7	625,737	15,000	0	0	47,737	80,000	30,000	15,000	0	15,000	0	15,000	0	103,000	0	595,737	0	32,737	380,000	80,000	492,737	103,000	0	0	0							
H8	478,455	15,000	0	0	70,455	0	30,000	15,000	0	15,000	0	15,000	0	0	0	448,455	0	55,455	393,000	0	448,455	0	0	0	0							
H9	473,656	14,705	0	0	63,951	0	27,900	14,705	0	13,195	0	13,195	0	0	0	445,756	0	50,756	395,000	0	445,756	0	0	0	0							
H10	469,863	14,852	0	0	7,031	110,000	30,000	14,852	148	15,000	15,148	148	15,000	0	439,883	0	6,883	338,000	95,000	439,883	0	0	0	0	0							
H11	384,639	14,851	0	0	101,788	0	30,000	14,851	0	15,149	0	15,149	0	0	0	336,135	0	68,135	268,000	0	336,135	0	0	0	18,504							
H12	416,011	164,847	0	0	132,164	0	30,000	14,850	0	15,150	0	15,150	0	0	0	359,548	149,997	90,551	119,000	0	209,551	0	0	26,463	26,463							
H13	191,298	65,302	0	0	74,996	0	26,972	13,337	0	13,635	0	13,635	0	0	0	142,413	51,965	39,448	51,000	0	90,448	0	0	21,913	21,913							
H14	236,174	88,285	0	0	73,889	0	26,960	13,329	0	13,631	0	13,631	0	0	0	176,250	74,966	27,294	74,000	0	101,294	0	0	32,964	32,964							
H15	99,186	13,437	0	0	85,749	0	26,874	13,437	0	13,437	0	13,437	0	0	0	39,237	0	39,237	0	0	39,237	0	0	33,075	33,075							
H16	96,945	12,476	0	0	84,469	0	24,953	12,476	0	12,477	0	12,477	0	0	0	36,017	0	36,017	0	0	36,017	0	0	35,975	35,975							
H17	110,873	37,262	0	0	73,611	0	23,705	11,852	0	11,853	0	11,853	0	0	0	50,821	25,410	25,411	0	0	25,411	0	0	36,347	36,347							
H18	105,298	39,884	0	0	65,414	0	22,505	11,252	0	11,253	0	11,253	0	0	0	48,264	28,632	19,632	0	0	19,632	0	0	34,529	34,529							
合計	3,798,249	525,438	0	0	961,811	2,018,000	190,000	3,169,811	103,000	418,943	194,478	209,465	15,000	224,465	3,139,536	330,960	512,576	2,018,000	175,000	2,705,576	103,000	239,770	239,770	239,770								

は整備等費用を含む

### 3. 鞠智城跡整備事業一覧

#### ●補助事業等関係

	年度	予算額 (千円)	内容	事業名	
熊 本 県	昭和61～	418,943	発掘調査費	文化財関係補助事業 (～平成18)	
	平成 6,8	13,516	—	畑地帯総合整備事業	
	7	103,000	モニュメント	(財)日本宝くじ協会 普及宣伝事業	
	11	8,416	—	緊急地域雇用特別基金事業	
	12	299,994	温故創生館	223,105 千円	地域材利用促進木造公共施設等整備事業
			武器庫	43,875 千円	
			16,200	—	緊急地域雇用特別基金事業
	13	103,930	長者山展望広場休憩所		木材産業経営革新公共施設等整備事業
				16,200	
	14	149,912	研修棟	82,163 千円	木材産業構造改革強化施設整備事業
			長者山木栈道	48,825 千円	
			11,269	—	緊急地域雇用創出特別基金事業
	15	11,269	—	—	緊急地域雇用創出特別基金事業
16	12,210	—	—	緊急地域雇用創出特別基金事業	
17～	99,085	園路整備	—	文化財関係補助事業	
①県計		1,263,944			
菊 鹿 町	平成12	70,000	物産館	地域材利用促進木造公共施設等整備事業	
	13	8,819	外構工事	熊本県地域振興総合補助金	
	②町計	78,819			
①+②		1,342,763			

#### ●単費事業等関係

	年度	予算額 (千円)	内容	
熊 本 県	平成 6	151,495	用地・補償	
	7	196,304	用地・補償	
	8	182,345	用地・補償	便所整備
			19,364	
	9	210,223	用地・補償	米倉
			51,660	
	10	66,885	兵舎	
	11	492,875	用地・補償	八角形鼓楼
			37,967	
	13	8,443	用地・補償	
	14	8,455	用地・補償	
	15	1,163	用地・補償	
	16	24,370	中央であいの広場駐車場	
6～	1,096,272	その他の整備費等		
③県計		2,547,821		
菊 鹿 町	平成 7	59,134	町道改良	
		24,937	用地・補償	
	12	49,974	町道改良	
		12,688	用地・補償	
④町計	146,733			
③+④		2,694,554		

#### ●その他

	年度	予算額 (千円)	内容
九電	平成15	10,000	上原地区の電柱移設
⑤		10,000	

補助事業関係合計	①+②	1,342,763 千円
単費事業関係合計	③+④	2,694,554 千円
その他合計	⑤	10,000 千円
総計	①+②+③+④+⑤	4,047,317 千円

#### 4. 温故創生館入館者数の推移

平成18年12月28日現在

	H14月別 入館者数	累計 (H14.4.18～)	H15月別 入館者数	累計 (H14.4.18～)	H16月別 入館者数	累計 (H14.4.18～)	H17月別 入館者数	H17累計	累計 (H14.4.18～)	H18月別 入館者数	H18累計	累計 (H14.4.18～)
4月	5,932	5,932	5,630	92,481	12,278	203,506	9,059	9,059	314,079	7,863	7,863	412,928
5月	14,774	20,706	10,060	102,541	15,140	218,646	17,277	26,336	331,356	13,068	20,931	425,996
6月	8,890	29,596	7,399	109,940	8,659	227,305	6,859	33,195	338,215	6,490	27,421	432,486
7月	6,821	36,417	8,259	118,199	7,380	234,685	6,371	39,566	344,586	6,791	34,212	439,277
8月	6,145	42,562	8,798	126,997	7,792	242,477	6,585	46,151	351,171	6,838	41,050	446,115
9月	8,229	50,791	10,850	137,847	8,348	250,825	8,471	54,622	359,642	7,587	48,637	453,702
10月	9,579	60,370	12,173	150,020	11,878	262,703	10,661	65,283	370,303	13,095	61,732	466,797
11月	8,308	68,678	12,673	162,693	14,911	277,614	11,807	77,090	382,110	13,987	75,719	480,784
12月	3,014	71,692	4,969	167,662	7,646	285,260	4,419	81,509	386,529	5,284	81,003	486,068
1月	3,577	75,269	5,654	173,316	5,215	290,475	4,828	86,337	391,357	0	81,003	486,068
2月	4,800	80,069	8,415	181,731	6,467	296,942	5,953	92,290	397,310	0	81,003	486,068
3月	6,782	86,851	9,497	191,228	8,078	305,020	7,755	100,045	405,065	0	81,003	486,068
計	86,851	86,851	104,377	191,228	113,792	305,020	100,045	100,045	405,065	81,003	81,003	486,068

H14. 4. 18開館	達成年月日	達成までの期間
1万人達成	H14.5.5	18日
5万人達成	H14.10.2	5.5ヶ月
10万人達成	H15.5.22	1年
15万人達成	H15.10.31	1年半
20万人達成	H16.4.21	2年
30万人達成	H17.3.13	3年
40万人達成	H18.3.11	4年

#### 兵舎仮展示場入館者数

年度	入館者数
平成11年度	41,846
平成12年度	42,301
平成13年度	32,772
計	116,919

平成11年度からの入館者数 602,987

# 事例報告

## 吉野ヶ里遺跡（佐賀県）

弥生時代の一村落の吉野ヶ里<sup>よしのがり</sup>遺跡は、工業用地造成の計画に基づく事前の発掘調査で、遺跡の存在が公になった。調査結果が、<sup>やまたいこく</sup>『邪馬台国』に繋がるという期待もあり、全国的に一躍有名になった。



## 吉野ヶ里遺跡の国営公園化に向けた取組み状況

年	月	発掘関係記事	国営公園化関係記事
平成元年	2月	大規模な環壕集落のほぼ全体を発掘。	(23日～) 発掘調査の成果をマスコミ各社が大々的に報道。吉野ヶ里遺跡が『魏志倭人伝』の記述の内容に信憑性を与えるものとして研究者の注目を集め、マスコミ報道が加熱。遺跡見学者は連日1万人を超え、遺跡の保存や工業団地造成計画凍結の声が大きくなる。
	3月	北墳丘墓の発掘で、甕棺墓から有柄細形銅剣やガラス管玉が出土。	(2日) 墳丘墓から有柄式銅剣やガラス管玉が出土したことから、報道が加熱し見学者も増大する。 (7日) 香月熊雄佐賀県知事、遺跡を保存し活用することを表明し、文化庁へ史跡指定を要請。
	4月	埋蔵文化財包蔵地約30ha 発掘調査終了。新たに吉野ヶ里遺跡全容解明のための確認調査を開始。	<b>西岡文部大臣視察。</b>
	5月		(7日) 遺構保存のため遺跡公開を中止し、覆土工事を開始。2/23からの見学者の累計105万5千人となる。
	8月		<b>知事が国営公園化を強く要望していきたい旨を表明。</b>
	11月		仮復元した環壕や建物群、覆屋をした墳丘墓の公開を開始。 <b>海部首相視察。</b> 知事が吉野ヶ里遺跡保存整備に関する要望書を首相に提出(特別史跡指定、史跡の公有化、国営公園事業化の要望)。
	平成2年	1月	元年からの確認調査で、吉野ヶ里遺跡の弥生時代後期の環壕集落の規模がほぼ40haと推定。遺跡南部で弥生中期の青銅器製造遺構を確認。丘陵南にも墳丘墓らしい盛土遺構の存在を確認。
3月			国の文化財保護審議会が史跡指定を答申。見学者累計200万人となる。
4月			<b>保利文部大臣視察。</b>
5月			国史跡指定(約22ha)。
6月			<b>建設省、文部省に国営公園化を要望。</b>
9月			見学者累計300万人となる。
10月		遺跡南側丘陵上で墳丘墓である可能性を有する遺構を確認。	
11月			<b>「吉野ヶ里国営公園整備促進協議会」が発足。</b>

年	月	発掘関係記事	国営公園化関係記事
平成3年	4月	南内郭南方にも甕棺墓群の存在を確認。	見学者累計 400 万人となる。
	5月		特別史跡指定。(指定面積 22ha)
	6月		九州地方知事会議において「吉野ヶ里周辺の国営公園の実現について」が特別決議される。
	8月		官民一体の「国営吉野ヶ里歴史公園実現推進協議会」が発足。 九州国会議員の会、九州地方知事会、九州・山口経済連合会合同で「国営公園の現実について」を決議・要望。
	9月 ～12 月		九州各県町村議会議長会、九州地区市町村文化財保存整備協議会、佐賀県議会、全国史跡整備市町村協議会、日本考古学協会総会、全国都市公園整備促進大会が、相次いで「国営吉野ヶ里歴史公園の実現について」を要望・決議する。
	10月		遺跡の普及と観光をPRする吉野ヶ里フェスタ開催。見学者累計 500 万人達成イベント。
	11月		山崎建設大臣視察。
	12月		平成4年度政府予算(案)における「国営吉野ヶ里歴史公園(仮称)の整備着手事業」で約 50ha が承認される。
平成4年	4月	墳丘墓南方で、2重の環壕によって囲まれた空間(北内郭)を確認。その内外から物見櫓などの掘立柱建物跡などを発掘。北墳丘墓の再発掘をおこない、新たに甕棺墓7基が発掘され、3本の銅剣と青銅製把頭飾が出土。	羽田大蔵大臣視察。
	5月		天皇皇后両陛下下行幸啓。
	9月		吉野ヶ里フェスタ開催。
	10月		国営吉野ヶ里歴史公園閣議決定(国営公園区域: 54ha)歴史公園の規模は国営区域 54ha、県営区域 63ha 合わせて 117ha となる。吉野ヶ里歴史公園(仮称)基本計画検討委員会が設置され検討が始まる。
平成5年	2月	北内郭跡内部から 12.5m 四方の巨大な掘立柱建物跡を発掘、祭殿的な重層建物と推定。北内郭跡の壕から中広形銅戈出土。	吉野ヶ里歴史公園の都市計画決定(案)が公告・縦覧され、佐賀県都市計画地方審議会において原案どおり議決される。
	3月		吉野ヶ里歴史公園の都市計画決定が告示・縦覧される。



年	月	発掘関係記事	国営公園化関係記事
平成5年	4月		<b>高円宮ご夫妻行啓。</b> 見学者累計700万人となる。
	5月		吉野ヶ里歴史公園基本計画が策定される。 (国営及び県営を合わせた公園全体117haの基本計画、ゾーニング、歴史公園の基本テーマ及び方針が決定)
	10月		吉野ヶ里フェスタ開催。 <b>建設大臣への都市計画事業認可を申請。</b>
	11月		都市計画事業(吉野ヶ里歴史公園・県営)認可。 吉野ヶ里歴史公園基本設計検討委員会が設置され検討が始まる。
	12月		吉野ヶ里歴史公園の事業認可告示される。
平成6年	3月	弥生時代中期の大規模環壕跡と出入口部を発見。	都市計画事業(吉野ヶ里歴史公園・国営)承認・告示される。
	4月		県に建設推進局吉野ヶ里公園課が新設される。
	6月		吉野ヶ里歴史公園基本設計が策定される。 (各ゾーンごとの整備方針内容を決定)吉野ヶ里歴史公園建物等復元検討調査を開始。 (縄文～古墳時代に至る全国の主要集落、大型建物、建築部材が出土した各遺跡の調査を実施)見学者累計800万人となる。
	7月		建設省九州地方建設局国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所が設置される。
	8月		<b>吉野ヶ里国営公園整備促進協議会が名称を国営吉野ヶ里歴史公園整備促進協議会に変更。</b>
	12月		国営吉野ヶ里歴史公園建物復元検討委員会が設置され検討が始まる。
	9月	南部で弥生時代の木製品(農具・工具・容器・祭祀具・建築部材など)が多数出土し始める。	見学者累計900万人となる。
11月		吉野ヶ里歴史公園の起工式。	
平成8年	3月	遺跡南部の低地で外環壕の延長部分を確認、多数の木製品が出土。中には中国の出先機関である楽浪郡(今の平壤周辺)から渡来したらしい木製斧柄も含まれる。南部西側水田部にトレンチを設け、土壌の花粉分析・プラントオパール分析を実施。	吉野ヶ里歴史公園建物等復元検討調査報告書まとめられる。 吉野ヶ里歴史公園植栽基本設計策定。 吉野ヶ里歴史公園北内郭広場の造成着手。
	7月		(～11月)皇太子ご夫妻ご視察。秋篠宮ご夫妻ご視察。
	10月		吉野ヶ里遺跡見学者数(平成元年2月23日からの累計)が1,000万人を突破。

年	月	発掘関係記事	国営公園化関係記事
平成9年	3月	南内郭西方の高床倉庫と考えられる掘立柱建物跡群の西方で、外環壕とともに倉庫群を区画したと考えられる後期の環壕を確認。遺跡西方の低地から中国製の銅銭「貨泉」出土。	吉野ヶ里歴史公園建物等復元基本設計の策定。(北内郭の祭殿、物見櫓、高床倉庫、竪穴住居の詳細復元設計まとまる) 吉野ヶ里歴史公園入口施設群の実施設計まとまる。
	5月		吉野ヶ里歴史公園入口ゾーンの造成開始。 吉野ヶ里歴史公園生活関連資料の調査。生活資料の収集分析検討を中心にソフト計画を策定。
	11月		見学者累計 1,100 万人となる。
平成10年		遺跡南西部で弥生時代中期の環壕跡から舟形木製品など多くの木製品を発掘。11月には九州初の銅鐸を発掘。南墳丘墓の南で縄文時代末～弥生時代初頭の環壕跡や、弥生時代の祭壇？を取り囲む溝跡などを発掘。北内郭弥生時代後期の外環壕の大規模な門跡を発掘。	
平成11年	3月	南内郭西の高床倉庫跡が 100 基を超えることが判明。南内郭西の外環壕未発掘部分の発掘で、新たに弥生時代の <u>巴形銅器の鋳型</u> が出土。	見学者累計 1,200 万人となる。
	10月		北内郭整備工事に着手。同時にセレモニー(柱建て・弥生体験等のイベント)が開催される。
平成12年	3月		吉野ヶ里歴史公園生活復元基本設計策定。
平成13年	3月	南内郭南方の弥生時代前期～中期の環壕集落跡を発掘。 <u>朝鮮系無文土器</u> 多数が出土。環壕跡、竪穴建物跡、貯蔵穴などを確認。	吉野ヶ里歴史公園南内郭西方倉庫群建物等基本設計策定。
	4月		吉野ヶ里歴史公園第1期開園(21日)。(開園区域：国営公園 16ha、県営公園 31ha の計 48ha)
平成14年	4月		西方倉庫群(倉と市)復元工事着手
平成15年	3月		吉野ヶ里歴史公園南内郭建物等基本設計策定。
平成16年	3月		西方倉庫群(倉と市)竣工・公開。
	5月		南内郭復元工事着手
平成17年	4月		南内郭復元工事竣工・公開。

# 図 版

鞠智城の空撮写真・発掘調査現場・出土遺物、復元建物等を掲載。

# 1. 鞠智城跡調査の資料

## 1 航空写真



鞠智城跡全景(南から)



長者原地区における遺構の検出状況(南東から)  
平成9年撮影

## 2 建物



32号建物跡(八角形建物跡)

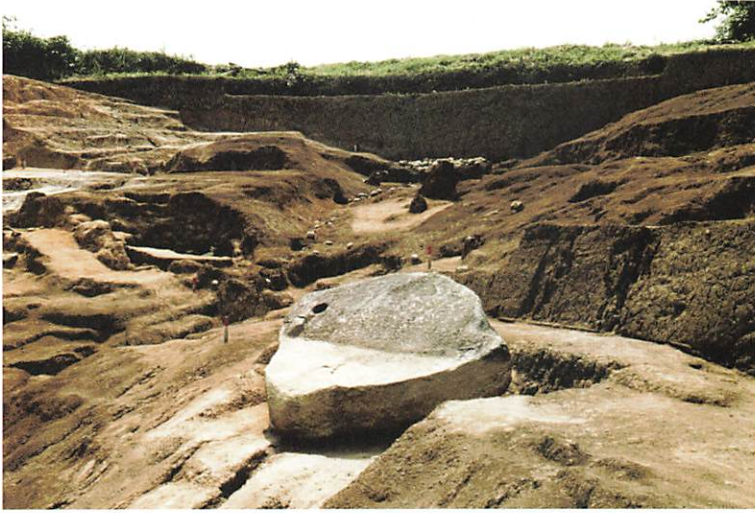


56号建物跡(礎石建物跡)

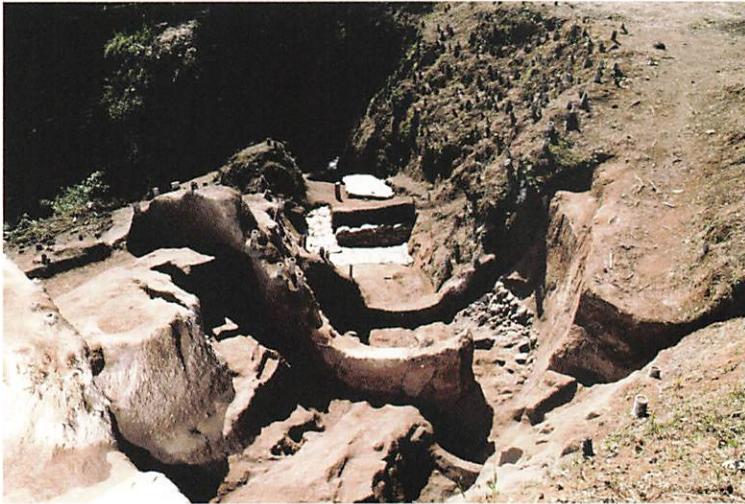


60号建物跡(掘立柱建物跡)

### 3 城門



深迫門礎石と完掘状況(東から)



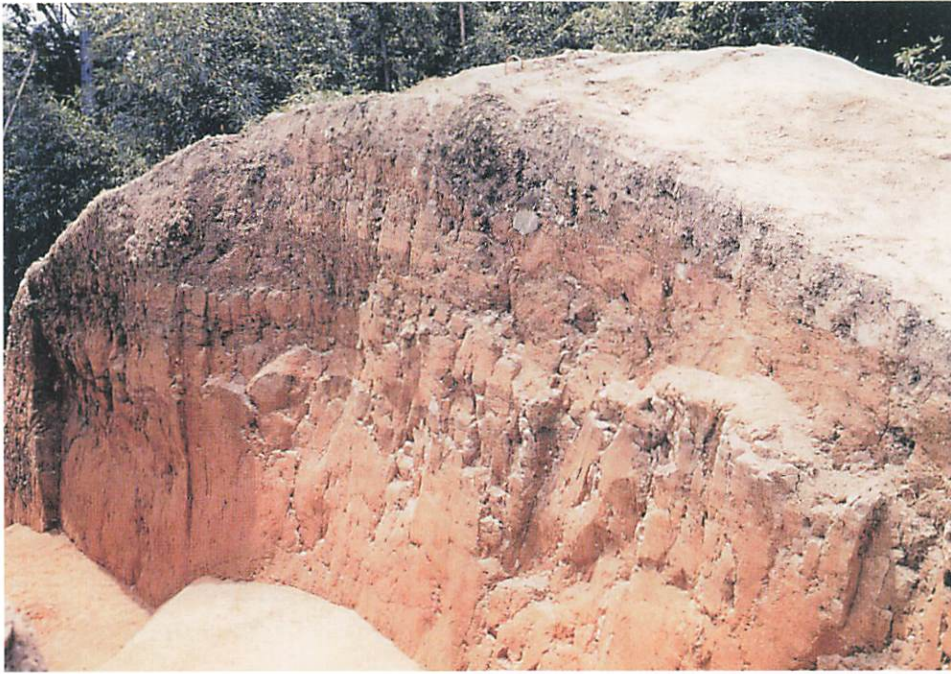
堀切門跡完掘状況(北から)



池の尾門跡の水門全景(東から)

## 4 土塁

### ①南側土塁線



南西隅における版築の状況(東から)

### ②西側土塁線



シャカンドン地区の版築土塁  
(西から)

5 貯水池



貯水池内の貯木場(南から)



蔓の貯木状況



木舞と平瓶



水汲み場跡(北東から)



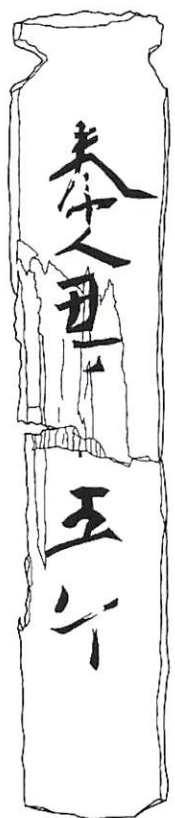
6 遺物

①軒丸瓦



単弁八葉蓮華文  
軒丸瓦

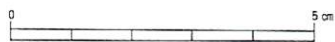
②木簡



积文

「秦人忍□五斗」  
〔米カ〕

134×26×5



1号木簡

## 2. 鞠智城整備関係



温故創生之碑



八角形鼓楼



米倉



武器庫



兵舎



園路から温故創生館を望む



温故創生館



米倉と八角形鼓楼



長者山展望広場休憩所



灰塚から長者原地区を望む



園路整備状況

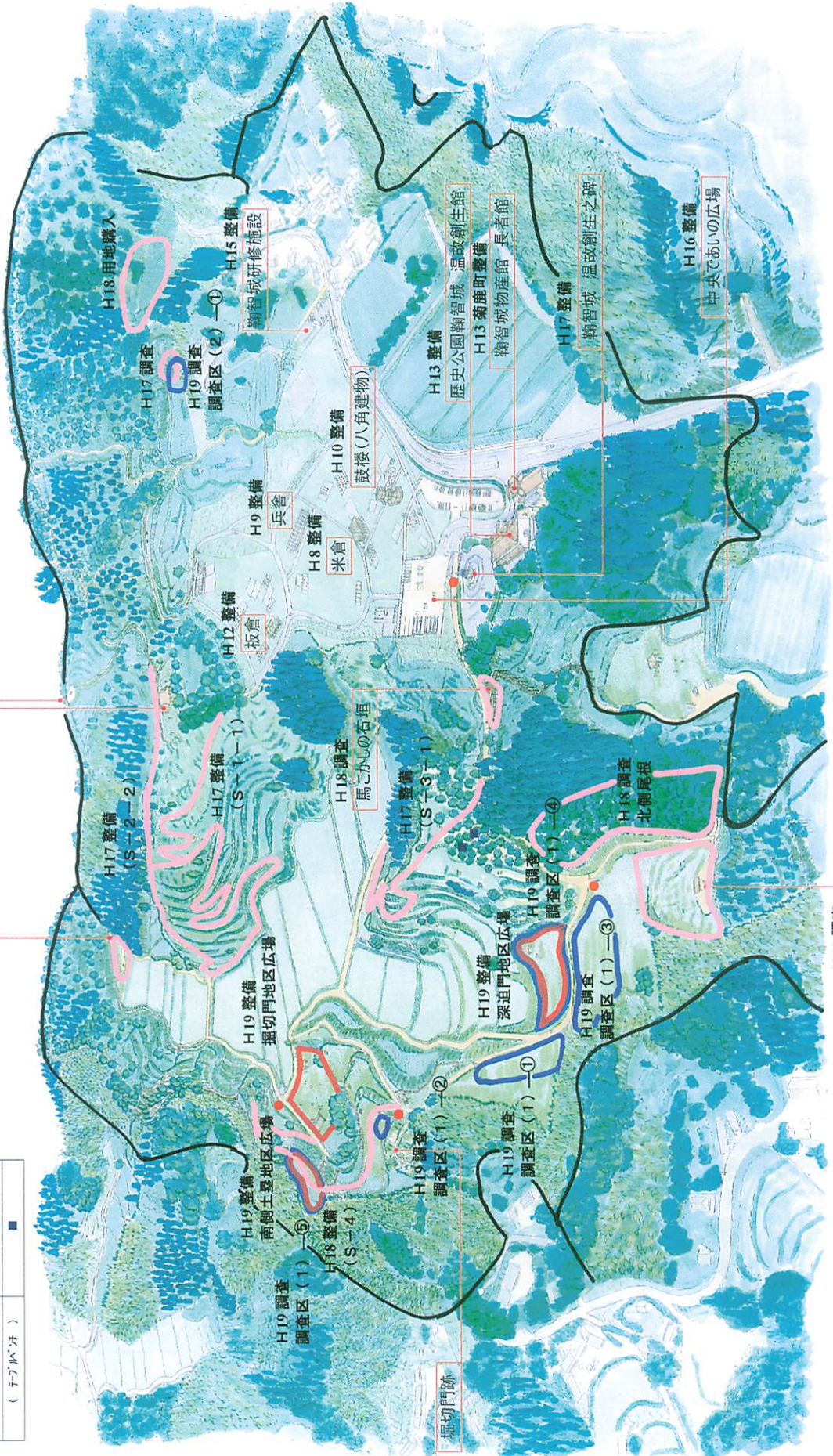


園路整備状況



凡例	
国指定範囲	—
H18以前の調査・整備等	—
H19調査	—
H19整備	—
(道標)	●
(子ブが'方)	■

- H15 整備  
灰塚展望施設
- H14 整備  
長者山休憩施設
- H17・18 調査  
池の尾門跡



史跡鞠智城跡保存整備鳥瞰図

### 3. 鞠智城アクセスマップ



# 期成会について



## 国営鞠智城歴史公園設置促進期成会

### 《会員の構成》

凡例 ◆：全県的な団体

- (行政) ◆熊本県  
山鹿市、菊池市、玉名市、和水町、南関町、植木町  
◆熊本県市長会  
◆熊本県町村会
- (議会) 山鹿市、菊池市、玉名市、和水町、南関町、植木町の議会  
◆熊本県議会  
◆熊本県市議会議長会  
◆熊本県町村議会議長会
- (経済) 山鹿商工会議所、玉名商工会議所、  
菊池市商工会、七城町商工会、泗水町商工会、旭志村商工会、  
山鹿市商工会、菊水町商工会、三加和町商工会、南関町商工会、  
植木町商工会  
◆熊本県商工会議所連合会  
◆熊本県商工会連合会
- (観光) ◆熊本県観光連盟
- (文化) ◆熊本県文化協会  
◆菊池川流域古代文化研究会  
◆熊本県博物館連絡協議会
- (地元) 山鹿市国営鞠智城歴史公園設置促進期成会

《役員》

・ 会 長	熊本県知事	潮谷 義子
・ 副 会 長	山鹿市長 菊池市長 玉名市長 和水町長 熊本県観光連盟会長	中嶋 憲正 福村 三男 島津 勇典 坂梨 豊昭 河野 延夫
・ 常任理事	熊本県文化財保護審議会委員	古閑 三博
・ 顧 問	熊本県立大学理事長	蓑茂寿太郎
・ 理 事 (行 政)	山鹿市長 菊池市長 玉名市長 和水町長 熊本県市長会会長 熊本県町村会会長	中嶋 憲正 福村 三男 島津 勇典 坂梨 豊昭 幸山 政史 (熊本市) 荒木 泰臣 (嘉島町)
(議 会)	熊本県議会議員 熊本県市議会議長会会長	前川 收 税所 史熙 (熊本市)
(経 済)	熊本県商工会議所連合会会長	中尾 保徳
(観 光)	熊本県観光連盟会長	河野 延夫
(文 化)	熊本県文化協会会長	小堀 富夫
・ 監 事	熊本県町村議会議長会会長 熊本県商工会連合会会長	秋山 茂治 (菊陽町) 伊東 昭正
・ 幹 事	熊本県 山鹿市 熊本県商工会議所連合会 熊本県観光連盟 菊池川流域古代文化研究会 熊本県文化協会	富田 耕司 (土木部次長) 西田 秀行 (総務部長) 永田 昭三 (専務理事) 木原望東男 (専務理事) 大田 幸博 (事務局長) 吉丸 良治 (副会長)







この電子書籍は、鞠智城跡 国営鞠智城歴史公園設置に向けて を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城跡

国営鞠智城歴史公園設置に向けて

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中心区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2024 年 7 月 20 日